

# 令和5年度 第1回府中市青少年問題協議会

## 議事録(要旨)

- 日 時 令和5年7月13日(木) 午後2時～午後3時5分
- 場 所 府中市役所北庁舎3階 第1・2・3会議室
- 出席委員 高野会長、西村委員、渡辺委員、北島委員、中田委員、村野委員、  
矢口委員、大室委員、小澤委員、重久委員、坂下委員、堀井委員、  
丸山委員、古川委員、石川委員、伊藤(仁)委員、増渕委員、菅委員、  
松下委員、高汐委員、鈴木委員、古森委員、酒井委員
- 欠席委員 長畑委員、廻委員、伊藤(敏)委員、小高委員、矢崎委員
- 代理出席 府中警察署 内海生活安全課長
- 関係各課 扇山環境政策課長補佐、小柴地域コミュニティ課長、古田地域安全対  
策課長、鈴木文化生涯学習課長、目黒スポーツタウン推進課長、  
古塩地域福祉推進課長、梶田健康推進課長、石田子ども家庭支援課長、  
鈴木指導室主事
- 事務局 赤岩子ども家庭部長、平井児童青少年課長、福嶋児童青少年課長補佐、  
福永健全育成担当主査、立川事務職員
- 傍聴者 なし

## 資 料

---

### 1 会議資料

#### (1) 次第

#### (2) 令和5年度第1回府中市青少年問題協議会会議資料

資料1…府中市青少年問題協議会条例

資料2…府中市青少年健全育成通年・関連事業実施結果等

資料3…令和4年度青少年対策事業の参加状況

資料4…社会環境浄化活動について

令和5年度 府中市青少年問題協議会委員名簿

### 2 情報交換資料

- ・東京都多摩児童相談所相談概況等 (多摩児童相談所 矢崎委員提出資料)
- ・府中ヤングケアラープロジェクト (子ども家庭部子ども家庭支援課)

## 次 第

---

- 1 あいさつ
- 2 議題
  - (1) 副会長の選任について
  - (2) 府中市青少年健全育成事業の実施状況等について
  - (3) 青少年対策地区委員会の活動状況について
  - (4) 社会環境浄化活動について
- 3 情報交換
  - (1) 少年非行等の現状について
  - (2) 児童・生徒の現状について
- 4 その他
- 5 閉会

## 議 事 概 要

---

### 1 あいさつ

会長より、開会の挨拶が行われた。

事務局より

- ・ 委嘱状の伝達
- ・ 新任委員の紹介
- ・ 欠席委員の報告
- ・ 配付資料の確認

等が行われた。

### 2 議題

#### (1) 副会長の選任について

【事務局より、会議資料1に基づき副会長の選任について説明】

渡辺委員から西村委員の推薦、石川委員から伊藤（仁）委員の推薦があり、了承が得られ、府中市議会議員の西村委員、府中市青少年対策浅間地区委員会の伊藤委員がそれぞれ副会長に選任された。

#### (2) 府中市青少年健全育成事業の実施状況等について

【事務局より、会議資料2に基づき府中市青少年健全育成通年・関連事業実施結果等について説明】

それでは、議題の（２）、「府中市青少年健全育成事業の実施状況等」について説明いたします。お手元の会議資料３ページ、資料２をご覧ください。こちらは、本市及び関連団体の実施する青少年健全育成関連事業について、３ページから６ページに令和４年度の事業実施結果を、７ページから１１ページに令和５年度の実施予定事業を掲載したものでございます。

はじめに、令和４年度の事業実施結果を説明いたします。３ページをご覧ください。表の左から「関連事業担当課等」、「事業内容」、「総事業数」、「実施事業数」、「参加人数」、「参加児童数」の順に記載しております。令和４年度は、１７の部署において１４３の事業が実施され、延べ４２７、１７７人の参加があり、このうち、児童の参加は、３５４、６３３人でした。令和４年度は、前年、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったイベントの再開などもあり、令和３年度と比べ、実施事業数は３４件、参加人数は約１３万人増加する結果となりました。コロナ禍が完全に終息しない中であって、関係の皆様のご理解・ご協力や、創意工夫などにより、しっかりと感染症対策を講じながら事業を実施できた結果と捉えております。

次に、６ページをご覧ください。相談事業につきましては、子ども家庭部、教育部合わせて、現在８事業を実施しております。令和４年度は、３、３０１件の相談を受理し、児童・生徒の保護者をはじめ、広く市民の方々に活用していただきました。令和３年度の状況と比較しますと、総件数では約１５０件減少しましたが、児童・生徒からの相談件数は約３３０件増加しております。

最後に、令和５年度の事業予定について説明いたします。資料の７ページをご覧ください。７ページから１１ページにかけまして、令和５年度に実施予定とされている、各部署・団体の青少年健全育成事業を掲載した一覧となっております。事務局といたしましては、令和５年度府中市青少年健全育成基本方針に掲げる目標の達成に向けて、関係機関および地域との相互連携をより深めながら、各事業を推進してまいりたいと考えているところでございます。

府中市青少年健全育成事業の実施状況等についての説明は以上となります。

【意見、質問はなし。了承】

### (3) 青少年対策地区委員会の活動状況について

【伊藤委員より、会議資料３に基づき青少年対策地区委員会の活動状況について説明】

それでは、私からお手元の会議次第にあります議題（３）青少年対策地区委員会の活動状況について、ご説明させていただきます。青少年対策地区委員会は、市内の各中学校を１単位として、現在１１の地区で青少年の健全育成事業活動を実施しております。委員の構成は、学校、ＰＴＡ、民生児童委員、保護

司、自治会会員、青少年委員などからなっております。活動内容は、大きく分けまして、環境浄化活動・非行防止活動・育成事業活動・啓発事業活動からなっております。

会議資料1 2ページからの資料3をご覧ください。令和4年度の青少年対策事業を各11地区ごとに表にしてあります。新型コロナウイルスやインフルエンザ、夏には熱中症対策等から、中止判断となった事業もありますが、青少対の活動も徐々に例年通りの活動に戻ってまいりました。新型コロナウイルスの影響で活動が止まっていた空白もあり、事業の準備などでは記憶を呼び起こしながら、昨年度は事業を推進してまいりました。

今年度も夜間パトロール、地域清掃活動、啓発広報活動等を実施しています。これら青少対事業の令和4年度の参加人数についてですが、総数が13,181人で、うち児童数は6,069人の参加者がいました。今年度もより多くの市民・児童に参加して頂けるよう、各地域の特性に合わせて様々な事業を計画・実施しているところであります。詳しい活動内容についての質問等がございましたら、本日、各地区委員会の委員長が出席しておりますので、お尋ねいただきたいと思います。

最後になりますが、今後とも青少対の活動に対するご理解・ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。以上で、説明を終わらせていただきます。

【意見、質問はなし。了承】

#### (4) 社会環境浄化活動について

【事務局より、会議資料4社会環境浄化活動について説明】

事務局から、議題(4)社会環境浄化活動について、ご説明申し上げます。お手元の会議資料17ページの資料4をご覧ください。府中市では、環境浄化活動として、資料に記載のとおり、本年度も積極的な取り組みを実施していく予定でございます。

1の「市内パトロール活動について」ですが、青少年対策地区委員会では、青少年の非行防止、危険場所の発見等を目的として各種パトロールを実施しております。パトロールの実施方法は、パトロール員が姿を見せる「見せるパトロール」を重点に実施しております。令和3年度のパトロール活動は感染状況等を踏まえ61回の活動でしたが令和4年度は71回のパトロール活動を実施いたしました。本年度は、青少年たちが開放的になるテスト期間終了後やお祭り等のイベント後を考慮し、パトロールの実施日、時間帯等の選定を行い、より効果的なパトロール方法にて実施を計画しております。本市の安全安心も、警察官によるパトロールのほか、地域の方々の熱心なパトロール活動などに支えられて成り立っております。青少対の方を始めとする市民、地域住民の方と共

に青少年の社会環境浄化活動を取り組んでまいります。

次に2の「府中市青少年健全育成協力店制度について」ご説明します。この制度は、平成15年9月よりコンビニエンスストア、書店の2業種にご協力いただき、始まった制度です。本年6月現在では、青少対の皆様のご協力のおかげもあり、コンビニエンスストア102店舗、たばこ・酒店33店舗、書店2店舗、ビデオ店1店舗、ゲーム店3店舗、カラオケ店2店舗、刃物類販売店1店舗、インターネットカフェ1店舗、ホームセンター2店舗の合計147店舗のご理解ご協力を得て、事業を推進しております。青少年対策地区委員会の方々の呼掛けにより、協力店の数につきましては、昨年度から5店舗増えております。今年度も引き続き、市内の未加入のコンビニエンスストア、カラオケ店等の加入依頼活動等を、今月の「青少年の非行・被害防止全国強調月間」中に実施する予定です。

次のページの18ページに令和5年度「青少年の非行・被害防止全国強調月間について」の資料をご覧ください。こども家庭庁では、子どもたちが夏休みに入る毎年7月を「青少年の非行・被害防止全国強調月間」として青少年の健全育成への取組みを集中して実施しております。今年度の最重点課題及び重点課題は、全6項目です。項目のみ読ませさせていただきます。

最重点課題 インターネット利用におけるこどもの犯罪被害等の防止

重点課題1 有害環境への適切な対応

重点課題2 薬物乱用対策の推進

重点課題3 不良行為及び初発型非行（犯罪）等の防止

重点課題4 再非行（犯罪）の防止

重点課題5 重大ないじめ・暴力行為等の問題行動への対応

以上の合計6項目になっております。各機関との連携や青少対の皆様等のご協力を得まして、広く啓発をしていく予定でございます。以上で説明を終わります。

【意見、質問はなし。了承】

#### (4) 事前質問の紹介及び回答

【事務局より、事前質問の紹介及び回答について説明】

委員より2件、事前にご意見をいただいておりますので、ご意見の内容のご紹介及びご回答をさせていただきます。

1件目のご意見

『市内の学校で実施しているOtta見守りサービスについて、児童青少年課と連携し、青少年対策地区委員会の皆様にも「見守り人」登録の協力をいただいておりますか。』とのご意見をいただきました。事務局より回答いたし

ます。

**【回答】**

Otta 見守りサービスは、本年1月をもって市立小学校全校への導入が完了しました。Otta は、見守り端末を持った児童が、公共施設や店舗など各小学校の学区域内に約20か所設置した基地局付近を通過することで位置情報履歴が記録される仕組みのもので、万が一の際、保護者同意のもとで児童の位置情報履歴を警察に開示し、捜索活動の一助とすることができます。

また、スマートフォンに見守りアプリ「見守り人（みまもりびと）」をインストールした市民等とすれ違うことでも位置情報を記録することができ、地域で見守りを行えることが特徴となっています。先月行われました青少年対策地区正副委員長会で、事務局より Otta 見守りサービスを紹介させていただき、青少年対策委員の皆様へ見守りアプリのインストールを呼びかけのご協力をお願いとところでございます。見守り人が増えることで児童の見守りの精度を高めることができますので、皆様にも見守りアプリをインストールしていただければと存じます。

2件目のご意見

『ヤングケアラー、ネグレクト等、家庭に起因するものが子どもの健全育成に重大な影響を及ぼしている現状があります。関係機関等との連携確保が大きな課題になっています。』とのご意見をいただきました。子ども家庭支援課石田課長よりご回答をいただきます。

**【回答】**

家庭に起因する子どもの問題につきましては、ご意見のとおり関係機関との連携が非常に重要でございます。ヤングケアラーの支援につきましては、今年度、相談窓口を2カ所とし、それぞれの窓口にはヤングケアラーコーディネーターを配置し相談支援を強化しております。昨年度までは、ヤングケアラーについては子どもが不安定になったり、問題が生じてから連絡が入り対応することが多い状況でしたが、コーディネーターを配置し、相談支援を行うことで問題が大きくなる前に、ご自身や周りの大人が気付いて早期の支援ができるよう取り組んでおります。

また、本日配布いたしました三つ折りのリーフレットをご覧くださいと思いますが、相談窓口及び今年度の事業を記載しております。今年度は実態調査、研修会に加えまして、関係機関や地域団体が参加するネットワーク会議を開催いたしまして、関係機関が連携して支援できる体制を進めてまいります。

また、養育困難や児童虐待に至った個別の事案につきましては、これまでどおり要保護児童対策地域協議会におきまして、守秘義務を課したうえで、関係機関と情報を共有したり、個別ケース検討会議を行うなどして支援してまいり

ます。支援しているお子様やご家庭に変化があった場合は、相談担当から関係機関に情報提供を行っていますが、関係機関からケースの状況についての問合せにも対応しておりますので、状況の確認をしたい場合は、子育て世代包括支援センターみらいに連絡いただければ、ご対応できますので今後とも連携の程、よろしく願いいたします。以上でございます。

### 3 情報交換

#### (1) 少年非行等の現状について

【警視庁立川少年センター所長 菅委員より説明】

立川少年センターの菅と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日お集まりの皆さま方におかれましては、平素から警察業務各般、とりわけ青少年健全育成に関しまして、深いご理解とご協力を賜りまして、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。それでは、私から非行少年の現状についてご報告させていただきたいと思っております。まず、当センターは11の警察署それから17の市を担当区域としておりまして、立川を始めとする繁華街地区を中心に街頭補導活動を行っております。

最初に補導活動について、説明をさせていただきたいと思っておりますが、街頭補導活動につきましては担当区域以外でも実施することがありまして、後程ご説明する新宿歌舞伎町のトー横界限での補導ですとか、あるいは渋谷ハロウィン対策に伴う補導、その他にもサッカーワールドカップなどの世界的な規模の大会開催に伴う補導等にも従事しております。府中市内では、府中駅周辺に所在するゲームセンターやカラオケボックス、それから公園等の少年達がい集するような場所を定期的に補導活動しているほか、東京競馬場においてもG1レースなどの開催日に合わせて補導活動を実施しております。そして補導活動につきましては、当センター員だけで実施するだけでなく、各警察署や少年警察ボランティアである地域の少年補導員の方々、そして学校の先生方とも定期的に合同で補導を行っているところであります。

補導件数についてご説明をさせていただきますと当センターでの令和4年度中の年間補導件数は、1033件となっております。前年比でマイナス60件ということで減少しております。またここ数年は1000件前後で推移しておりますので、ほぼ例年並みの件数ではあると思っておりますけれども、コロナ禍において担当区域内でのゲームセンターが数店舗閉店したことも影響しているものと考えております。行為別で見ますとゲームセンター等の風俗営業所への立入り、それと喫煙が多くて、この2つで全体の約7割を占めております。学職別では高校生が533人と最も多く、ついで中学生が435人となっております。中高生で全体の約94%を占めている状態でございます。

都内全体の補導状況について説明させていただきます。

令和4年度中に都内で補導された不良行為少年は、3万2,963人となっていて、前年比でプラス6,842人の大幅な増加となっております。前年まで、しばらく減少傾向が続いていたのですが、増加に転じたというのは、深夜はいかいかあるいはゲームセンター等の風俗営業所の立入りといった補導が、大きく増加したことが要因としてあげられます。これは新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いて、生活様式も従前に戻っていく中で、人流が活発化したことが関係していると考えております。都内全体を行為別に見ますと深夜はいかいかももっとも多く全体の約6割を占め、ついで、喫煙、風俗営業所への立入りの順となっております。この3つの類型で全体の約9割を占めております。また学職別に見ますと高校生が2万2,151人でもっとも多く、次いで中学生の6,860人となっております。中高生が全体の約9割を占めている状況でございます。

次に少年達を取り巻く環境としまして、トー横界限とメンズ地下アイドル、そして闇バイトの3つの問題について、ご説明させていただきます。

トー横界限というのは、皆さんご存知かと思いますが、新宿歌舞伎町の東宝ビル西側に所在する通称シネシティ広場周辺のことなのですが、この場所に家庭や学校に居場所がなく、SNSで繋がっている少年達が主に深夜帯に集まってきます。中には仲間数名でホテルに連泊して家に何日も帰って来ないといったケースもありますし、またホテル代のお金を稼ぐために、援助交際やパパ活をする少年がいます。トー横に集まる少年達が飲酒や喫煙等の不良行為をしたり、市販薬の大量摂取、いわゆるオーバードーズを繰り返して依存症に陥ったり、もっと悪いケースですと大麻等の違法薬物に手を出したり、パパ活や援助交際などから性被害に遭う等、非常に危険が多く社会問題にもなっております。警察としましては、区役所あるいは児童相談所とも連携をしまして、深夜帯を中心とした集中的な街頭補導活動の強化をはじめ、福祉犯罪の取締り、それから補導した少年や保護者を相談に導入するなど様々な対策を推進しております。

次にメンズ地下アイドル略して「メン地下」と言われておりますが、これは若い男性アイドルグループのことを指すのですが、都内に数多くのグループが存在してございまして、主に繁華街で少年達を含む若い女性をターゲットにして、ビラ配りをしたり、SNSなどで営業活動を行ってライブ会場に来るように誘引します。そして一部のライブ会場では、有料でチェキ撮影などのインスタ写真を撮ったり、デート等のオプションやイベントを開催して来場したファンから、金銭を吸い上げている状況です。自分が好きになったアイドル、“推し”と言われていきますけれども、推しのアイドルにどんどんお金を注ぎ込んで、結果的に少年達が家のお金を持ち出したり、パパ活や援助交際によって資金を得るといったことを繰り返すようになっていたり、推しのアイドルから少年が性被害を受けるといった事例も実際に起きております。このメン地下に関しましては、関連してメンズコン



セプトカフェいわゆるメンズコンカフェと呼ばれている営業形態があります。これはお店の中で推しのアイドルと一緒にお酒などを飲んで歓談できるというシステムになっていますが、実態はホストクラブと同じで、高いお酒をどんどん注文させられて、高額な料金を請求されるといった手口です。そのため少年達は先ほどと同様に、パパ活や援助交際、金品持ち出しなどを繰り返すという状況があります。メン地下に関する相談も当センターにおいても数件受理して対応しております。1つ例を話しますと、某市内の女子中学2年生のケースでは、この子はパパ活をして金銭を得たり、親のクレジットカード情報を利用して課金してしまったり、親が貯金しておいた少年名義の定期預金を勝手に引き出して、推しのアイドルに数百万円という大金を注ぎ込んでいたというケースがありました。残念ながら、メン地下を直接取り締まる法律は現状ではありませんが、警察では、適用可能な法令を駆使しまして性加害者であるメン地下アイドルを検挙したり、未成年にお酒を提供した店舗に対する取締りなどを強化しているところです。

次に闇バイトについてご説明をさせていただきます。

令和4年中に都内で闇バイトと呼ばれる犯罪実行者募集情報と言っていますが、闇バイトをきっかけに特殊詐欺に加担して検挙された少年は153人で、前年に比べるとプラス23人増加しております。なかでも中学生、高校生は検挙された少年全体の31パーセントを占めている状況でございます。闇バイトはSNSや求人サイトを使って、簡単な仕事、高報酬、すぐに稼げるなどと言った甘い言葉で勧誘して、顔写真や住所等が分かる身分証等の提示を求めてきて一度応募してしまうと、やめようと思っても、本人や家族に危害を加えると脅されて、最終的には犯罪行為に手を染めざるを得なくなります。そして実際には特殊詐欺では捕まりやすい受け子などに使われ、最近では皆さんご存知とは思いますが、強盗の実行犯としても使われています。高額な報酬を期待して犯罪を実行したものの実際は、わずかなお金しか得られなかったり、逮捕されて全くお金を得ることができずに賠償だけ負わされるといったようなケースもあります。警察としましては求人サイトへ協力要請を行ったり、メディアを通じて若い世代を対象として広報啓発活動を行っております。またヤングテレフォンコーナーなどの相談窓口でも闇バイトに関する相談に対応しているところです。

こういったト一横、メン地下、闇バイトに関しましては、東京都を通じまして各中学、高校にも注意喚起をしていただいているところではありますが、皆様方の身近にいる少年達にも是非、その危険性をご指導いただき、もしト一横に入り浸ってしまったたり、メン地下にハマってしまったたり、闇バイトに応募してしまったたりといった少年達の情報を把握されましたら、警察署や当センターにもご相談や情報提供をよろしくお願ひしたいと思ひます。

最後になりますけども、少年たちを取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。SNS上には有害な情報が溢れているということをしつかり認識し、私

達大人も必要な知識を備え、それを少年達に伝え注意喚起していくことが非常に大事なことだと思います。間もなく夏休み期間となりまして、少年達が開放的な気分になり、非行に走りやすい時期ですが、長期間学校を離れ、生活が不規則になって少年達の変化に目が届きにくくなり、非行が潜在化してしまう虞があります。我々警察としても関係機関の皆様と情報共有や連携をしっかりと図りながら健全育成、非行、被害防止に取り組んで参りますので、引き続きご理解、ご協力のほどよろしく願いいたします。大変雑駁ではございますが、私の説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

【意見、質問はなし。】

## (2) 児童・生徒の現状について

【小学校校長会会長 松下委員より小学校の現状を説明】

府中市立府中第八小学校校長の松下雄太と申します。今年度小学校校長会の会長を務めております。どうぞよろしく願いいたします。

市内22校の小学校は、1学期の教育活動を順調に終えることができおります。今学期の活動の中で、体験的な活動の充実という観点から3点お話ししたいと思います。

まずは、運動会の実施です。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、大勢の人数が集まることが、基本的に制限されておりましたので、体育発表会という名称で、その学年の発表を、その学年の保護者に向けて、発表するという形でした。それが、今年度からは、運動会として、全校児童が校庭に出て、表現運動や短距離走で汗を流しました。保護者からも、子どもたち同士が、元気に応援する姿が素晴らしいという声が寄せられました。まだ秋に、実施予定の学校も控えておりまして、子どもたちや保護者が、今からとても楽しみにしているということでございます。

次に、5年生の宿泊体験学習です。

これまではセカンドスクールとて、八ヶ岳にあります府中山荘で4泊5日で、この3年間は2泊3日で行っておりました。今年度から、ワクワク自然教室と名称を改めまして、3泊4日で実施されました。全22校が、長野県の飯山市か茅野市のどちらかに宿泊をします。いずれも、現地の観光協会スタッフの方々と、タイアップして、子どもたちの主体的な体験活動を生み出しております。飯山では、人との絆の中で、思いやりの心を育てることを目的に、戸狩村の民宿に子どもたちだけで宿泊するという民宿泊を行っております。また、茅野では、大自然の中で仲間と協力することを目的に、高原のホテルでチームワークを学びます。こちらも2学期実施校が多く、校長会で情報交換を密に行って、安全に行うように徹底しております。

最後は、英語体験学習です。

立川にあります、東京グローバルゲートウェイで5年生が半日、英語でコミュニケーションを図る体験学習を行いました。今年度からスタートした教育活動です。子どもたちは、少人数のグループになり、そこにネイティブスピーカーの外国人スタッフが付いて、様々なアクティビティに取り組みます。例えば、本物とそっくりの航空機の座席がありまして、そちらに座りながら、お土産やお料理を注文するという活動です。海外での生活場面を、想定した環境の中で、楽しく学ぶことができました。子どもたちからは楽しかった。また行きたい。英語って面白いという声が上がっております。何よりも、英語を話すことへの抵抗感が減り、英語に親しむことができました。

結びになりますが、これらの活動は府中市教育委員会の皆様が、府中市の子どもたちのために考えてくださった、素晴らしい教育活動です。ふるさと府中を愛し、未来に羽ばたく府中っ子を育てるスローガンのもと、これからも各学校が団結して教育活動を推進してまいります。

以上でございます。ありがとうございました。

#### 【意見、質問はなし】

#### 【中学校校長会会長 高汐委員より中学校の現状を説明】

府中市立中学校校長会会長、府中第八中学校校長の高汐でございます。どうぞよろしくお願いたします。冒頭にお礼を申し上げたいと思っていたところなのですが、学校教育というのは学習指導要領に乗っ取って行っているわけですが、その総則に子ども達が学んだことを活用発揮という風に書かれております。コロナ禍にはなかなか活用して発揮する場面がなかったのですが、本校だけでなく、各中学校でも青少対の皆様には子どもたちが、多くの発揮する場面を多く設定してございまして、さっそく、八中では、サマーフェスティバルで生徒たちが思う存分、学んだことを発揮しておりました。まずは、青少対の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。またこれを支えてくださっております市役所の皆さん、教育委員会事務局の皆様にも重ねて御礼を申し上げます。

中学校から3点お話をしたいと思います。

1点目は、ふれあい自然教室です。

これは中学校1年生の宿泊行事がございました。昨年度から行っておりますが、ふれあい自然教室、この名のとおり、各学校で「ふれあい」をキーワードに宿泊行事が行われました。子ども達にとっても教職員にとっても子どもと教職員同士でふれあう本当に貴重な時間を過ごすことができました。そこで教職員の立場で言うと、生徒理解を深めることができ、子ども達は自分たちの理解を深めること

ができました。その後の教育活動では、運動会があったり体育祭があったりするんですけども、この学びや経験が十分活かされたというところで、各中学校の校長から話を伺っているところでございます。

2点目でございますが、生徒指導に関してでございます。

生徒指導では、問題行動については未然防止がとても大事ななと思っております。生徒指導は幅広いのですけれども、例えば問題行動への対応や命の安全教育、また防災教育、安全教育と色々ございます。これについて中学校ではチームで行う生徒指導を実施しております。生活指導主任会が月1回行われておりますが、他校へも重要な情報は情報交換を行っておりますし、また校長会も月1回行っておりますが、その際にも生活指導の情報交換を必ず行って各校の生徒指導、生活指導に活かすことができっております。

3点目はリーダー育成でございます。

今週末、土曜日に生徒会リーダー研修がありまして、これは第80回目を迎えるということで府中市では伝統的な行事になっておりますが、今年は「バトンをつなぐ」をテーマに、各校の生徒会役員たちが一堂に会してお互いを磨き合い、互いの取組状況を教え合うものなのですけれども、それを各校が持ち帰って学校の生徒会の活動に活かしております。このことで生徒に前向きな気持ちを持たせて、各校の生徒会の主体的な活動が充実するように取組を進めているところでございます。

簡単でございますが、以上でご報告を終わりたいと思います。

#### 【大室委員より質問】

『中学校の先生にご質問ですが、昨日ジェンダーの事を発信しているタレントの方の自殺が報道されました。今回の自殺という悲しい事件が起きた場合に子ども達にどのようにフォローをしていくのか教えていただければと思います。』

#### 【高汐委員より回答】

ご指名ですので、私からお答えさせていただきます。

タレントの自殺という事を特別に取り上げてということではなく、やはり命に関することですので、年間を通して教育指導していくところが重要であると考えてございます。また思春期の中学生は、いろんな悩みを抱える生徒も多くいるはずですので、1人で考え込まないように、相談機関の紹介を年間を通して行い、助けを求められるように説明、伝えているところでございます。

教育委員会からも相談機関が一覧になった資料がありますし、その他にも色々な機関でも相談窓口の紹介がなされていますので、悩みがある生徒には、こういう多くの相談機関があることを伝え、相談機関へ繋げるなどの対応になります。

### 【都立高校代表 鈴木委員より高等学校の現状を説明】

皆様初めまして。私は東京都立府中工科高校の鈴木と申します。よろしくお願いたします。お手元に本校のパンフレットを置かせていただいたところですが、昨年度までは府中工業高校という名前で行ってまいりました。工科の科は科学技術の「科」であります。本校は、府中市の中で60年、皆様に支えられて築きあげてまいりました。今後とも、色んなところでお力添えをいただき、地域の皆様からも信頼していただけるような学校を目指してやってきたところでございます。この4月から工業と科学技術を融合させた工科高校という名称に変わりますが、工業高校の中に最先端のテクノロジーと取り入れてまいります。

さて、本校は青少対浅間地区の地域に所在しており、本日の資料の16ページでのところになりますが、青少年対策青年地区の委員会報告の中で、7月のところにスポーツフェスティバルというのがございます。今年度につきましても、伊藤副会長のご指導の下、本校も浅間中学校に出向いてスポーツフェスティバルに参加をさせていただきました。本校の約3分の1の生徒は、府中市内の中学校から入学している状況でございます。とりわけ、隣接する浅間中学校や府中第二中学校の生徒の皆さんには、本校でも多く入学をいただいているところではございます。

青少対のイベントには、生徒会の生徒が参加することが多いのですが、今回は浅間中学校で開催されるので、卒業生が行って見たらどうだろうかということになりまして、実際に浅間中学校から本校に入学した生徒達が浅間中学校にまいりました。スポーツフェスティバルに参加している若松小学校、府中第二小学校の児童の皆さんと浅間中学校の生徒の皆さん、そして浅間中学校を卒業した本校の生徒達で、150人くらい居ましたでしょうか。本校はものづくりの学校ですので、学校の中で使えなくなった机の脚の金属の部分を一度バラシまして、サッカーボールを蹴って、的に当てて射貫く「ストラックアウト」というゲームのフレームに溶接しなにして、小学生、中学生の皆さんに楽しんでもらおうと企画して制作し、お陰様で好評を得ることができ、制作した甲斐がありました。

何が申し上げたいかと言いますと、本校の生徒、高校生たちもこうした活動に参加して、地域の皆様、大人の皆様に支えていただいていると思っています。私は、本日、自転車用ヘルメットを用意してきましたけれども、この4月から本校も自転車の通学のところで、自分の命を守るためにヘルメットを着用させようということで、市内中学校の校長先生方にも予めご説明をした上で導入しております。高校生にヘルメットを被らせるというのは、なかなか大変でして、ご想像のとおりなんですけれども、開始するに当たっては、府中警察署の皆さんにも本校においでいただき、ヘルメットを着用することで自らの命をどうよ

うに守ることができるのか、なぜ必要なのかなど、そういったことを生徒だけでなく保護者に向けてもご指導をいただきました。現在、本校では6割を超える着用率でございます。都内でも、この数字はなかなかで、高校生がヘルメットを着用して通学しているのは、本校の教員の指導だけでは為し得なかったという風に思っております。多分小学校の児童の皆さんは、乗車時に保護者にヘルメットを被りなさいと言われて、被っていると思います。しかしながら、中学校に進級して自分の自我が芽生えてくると、ヘルメットを着用することは、髪型が乱れて恥ずかしいとか面倒だったり、あるいは中学校では自転車通学はしていなかったということで、高校時にはヘルメットは被らなくなっていることがあると思われるのです。ですから、本校の生徒は命を守るために地域の皆様からご指導いただいて、この着用率があるのですけれども、今度は、高校生がヘルメットを着用して自転車で安全に走る姿を小学生、中学生の皆さんに見てもらふことによって、この府中市の中でヘルメット姿の高校生を見ている状況を自分の記憶に残してもらい、自分たちも高校生になった時には、なぜ府中市の高校生はあんなにヘルメットを被っているんだろうという事を考えていただく、そういうきっかけになれば良いのではないかという風に考えております。

高校生もこの地域に対して、ものづくりで貢献することに加え、行動していくことによって、後につづく後輩達のロールモデルになることを期待しています。府中市の中には都立高校が5校ございます。他校の校長先生方ともよく話をしますが、恵まれた社会環境の中で、我々がこの地域に何を還元できるのか、そういった事を考えながら各校がそれぞれの特色を活かしてこれからも努力して参りますので、是非皆様のお力を借りながら今後もお願いしたいと思います。私からは以上でございます。

#### 【意見、質問はなし】

#### 4 その他

事務局より第2回府中市青少年問題協議会は、来年2月に開催予定と通知。

#### 5 閉会

会長より、会議の終了を宣言され、協議会は閉会となった。